

NPO和遊学舎が整備活動とトークショー

蚕の里で「安行桜」植樹して原風景が充実

上田市

上田にシルク文化が根付くようにーと、上田産の生糸生産に取り組む、上田市小牧のNPO法人

「和遊学舎」(樋澤行正理事長)はこのほど、整備活動を進める「蚕の里」で「桜」の植樹を実施。さら

古民家周辺に桜を植え(手前の桜など)、「蚕の里」の風情が整っていく



トークショーの様子

同法人は3年前から遊休農地を活用して桑を栽培し、養蚕から織物製作までの一貫した活動に取り組む。その中で古民家を再生し、機織り場とし

て活用。昨年夏は養蚕抛点として、蚕の里を整備

に「地域資源『蚕の里』と里山の原風景を考える」をテーマとした、トーク

ショードを行った。

同活動には、趣旨に賛同する各分野の有識者が参加。市内真田町在住の時代考証家・山田順子氏をはじめ大学教授や建築デザイナー、造園家らが

デザイナー・福原茂雄氏、筑波大学名誉教授・(財)日本サッカー協会特任理事・松本光弘氏がトークを守り、発展させ、地域の観光スポット」にしようと、アイディアを出し合っている。

今回は埼玉県の安行庭園(川口市安行)が社会貢献事業として参加し、「安行桜」20本を無償提供して植樹。ジャパンガーデンデザイナーズ協会からが協力し、蚕の里の桑畠や古民家周辺に桜を植えた。安行桜はソメイヨシノより早く咲き、開花

期間が長いという。またトークショーは、モダンに改装した古民家サロンで開催。山田氏、大阪芸術大学教授で環境

デザイナー・福原茂雄氏、筑波大学名誉教授・(財)日本サッカー協会特任理事・松本光弘氏がトークを展開、近隣住民らも参加して熱心に聴講した。

山田さんは「なぜ、都会ではできないから」とし、「ここは浅間山、烏帽子岳、根子岳、四阿山、太郎山、虚空蔵山すべてが見渡せる貴重なロケーションが魅力」と伝えた。

また昨夏、蚕の里整備で学生と共に石垣をついた福原氏は「石を据え

ることで魂が宿り、風景を眺める場所になる」と、景観デザインについて話す。安行生まれで安行庭園と所縁の松本氏は「安行桜はピンクの色彩がやや濃く、小ぶりの花をつける。来春は可憐な花の風情を楽しめると思う」と伝えた。